

教えて！米子城

第11回

米子城の発掘調査について その1



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今回は、平成27年度に行なわれた米子城の発掘調査について学びます。

ミナちゃん：3月の米子城跡発掘調査現地説明会はおもしろかったね。

ジローくん：県外から来た人も含め、80人くらいの見学者でにぎわっていたよね。

かるちゃん：米子市教育委員会では、昨年度から米子城跡保存整備事業に伴う測量や発掘調査を行なっているんだ。今回、発掘調査を担当したハマノ学芸員に来てもらったので、くわしい話を聞いてみよう。

ハマノさん：こんにちは。遺跡発掘好きが高じて横浜から1ターンしてきたハマノ学芸員です。よろしくお願ひします。皆さん3月の現地説明会に参加して下さってありがとうございます。

ミナちゃん：現地を見ながら説明を聞いて、すぐわかりやすかったです。

ハマノさん：百聞は一見にしかずですよ。私は去年の6月頃から、絵図や文献などの資料をたよりに城山の現地踏査を行ないました。草むらや林の中の不自然な平面や出っ張りに目を付け発掘調査したところ、天守の南東方向の山の中腹にある**八幡台**と、同じく南西方向にある**水手御門**の下方の2か所で、古い石垣や郭の遺構を発見したんです。

ジローくん：八幡台では、前回話題に上がった、江戸時代終わり頃に行なわれた四重櫓改修工事の際の作業場が見つかったんですよね。

ハマノさん：そうです。八幡台は「**米子御城平面図**」という幕末頃の絵図に描かれていたんですが、これまで現地調査されたことがなく、今回の試掘調査で、石垣の石を加工したときのもと思われる石片や壊れた瓦がたくさん出土したんです。その中に**嘉永癸丑**【嘉永6年(1853)】の年号が刻印された瓦の破片があったんですが、実は、鹿島家に伝わる日記に記載された四重櫓改修時の記録では、嘉永5年から7年にかけて、陰田・大谷村から切り出した石を深浦から荷揚げして城山の八幡台まで運び上げ加工し、天守に運び上げたと言われていて、その記述内容と、その際に瓦を焼いた瓦師松原氏の日記に記載された年号と、今回出土した瓦の年号が符合したことから、ここが八幡台の作業場だということが判明したんですよ。

かるちゃん：絵図と文書と出土遺物をヒントにパズルを解くようなもんだねえ。そして八幡台の下には、ずっと古い時期の石垣も埋もれていたんだね。次回もハマノ学芸員に続きを聞いてみよう。ちなみに、3月19日の米子城跡発掘調査現地説明会の資料は米子市ホームページの「**もっと知りたい！米子城—米子城日和—**」(文化課)のコンテンツからダウンロードして見ることができるよ。

ミナちゃん・ジローくん：ハマノ学芸員さん、次回もよろしく～。続きを教えてください。



「米子御城平面図」の八幡台（部分・江戸末期）



八幡台発掘調査現場



「嘉永癸丑」刻印の瓦

興味が尽きない米子城の発掘調査。ハマノ学芸員の話はまだまだつづくようですね。次回もおたのしみに！

(米子市教育委員会 文化課)